

# 袖ヶ浦市郷土博物館友の会・会報

# 友の会だより 第51号

発行 友の会事務局

袖ヶ浦市下新田 1133 番地

郷土博物館友の会

TEL:0438-63-0811

FAX:0438-63-3693

発行日:令和4年6月1日

## R4年度・郷土博物館友の会 総会開催・4月24日(日)

R4年度の総会は4月24日(日)13時より根形公民館視聴覚室で開催されました。事務局では、本年も昨年同様、新型コロナウイルス感染防止の為に密を防止して万全な体制を組んで臨みました。

総会は、委任状を含めて、48名の出席で開催。各グループ(G)代表からR3年度のG活動報告があり、会計担当からは決算報告、監査担当よ

り監査報告があり、その後R4年度の各G事業計画年度予算も報告され、審議の結果いずれの議案も満場一致で承認可決されました。

今年度の友の会役員は次の通りで全員留任となっております。



### 友の会会長

「楽しめる友の会を目指して」

中西 明美 記

友の会各グループ(G)もコロナ・コロナで各Gによつては、本格的な活動が出来ず2年間過ぎてしまったGもありました。ワクチン接種が進み、世の中、少しずつ動こうとしています。

昨年度友の会も新たに一歩踏み出して取組んだ「も

つとしりたい講座」を今年度も進めて行きたいですね。せっかく身近な木々の話を聞いたので、公園の木だけでも名札を付けたいものです。又「自然と歴史の散策会」の再開も待ち通しいですね。

各G、今年の活動に向けて前進しましょう。加えて

楽しめる友の会を目指して頑張りましょう。

### R4年度友の会 役員の皆様

- 会長 中西明美(いろは)
- 副 矢野佳次(凧の会)
- 副 西原崇浩(博館長)
- 理事 甲斐恵美子(土器)
- 小野寺研一(凧の会)
- 安孫子素子(有会)
- 吉田保雄(仏像)
- 今井久明(いろは)
- 今井恵子(機織り)
- 中村 康司(盆栽)
- 監事 武田 弘(凧の会)
- 田村 静子(有会)
- 事務局多田信子(いろは)
- 篠原美智代(いろは)
- 編集長今井久明(いろは)
- 庶務 水流拓馬(副主査)
- (記号●印新任・○印留任)



R4年度 総会風景

## 記念講演会 (兼袖ヶ浦学第162回) 「弥生農耕の実像を探る」

講師 千葉県教育庁教育振興部 大谷弘幸氏)

総会後の記念講演は、千葉県教育庁教育振興部の大谷弘幸氏より「弥生農耕の実像を探る」と題しての講演があり、近年君津地域の調査発見事例が増加しており、その調査研究結果をもとにした大変興味深い内容でした。講演要旨と受講の感想は4頁ご参照下さい。



記念講演会風景

# 友の会各グループ活動報告

## 仏像を学ぶ会 市内のお寺で 仏像鑑賞

私共「仏像を学ぶ会」は昨年11月29日(月)に市内のお寺で仏像を拝観してきました。

最初は、三箇の稲荷山光福寺で「不動明王立像」をはじめ「弘法大師像」「興教大師像」など多くの仏像を拝観しました。特に不動明王像は右手に剣を持ち、キッと前に向いておられる姿は非常に迫力があり、少し開いた口元は、何か私達を叱咤激励しているように感じました。

横田の前河山善福寺では、厨子に納められていたご本尊の「阿弥陀如来像」と両脇侍の「勢至菩薩像」「観音菩薩像」の三尊像を拝観することができました。又お寺の入り口に並んでいる六地藏は、土台が土砂に埋もれていたのを掘り起こし全体の姿が見えるようにしたことと鑑賞は続けていきたいと考

えております。

(代表 吉田保雄 記)



善福寺入り口の六地藏

## 凧の会 「空高く揚がる 凧にあこがれ」

節句には、凧が大空に舞い揚がり子供の健やかな成長を祈念したものであった。コロナ禍で思うような活動は出来ないが、木更津市内の高校で凧作り教室を開催した折、多数の高校生が興味深々に参加してくれた。又4月には千葉テレビが凧の作り方、凧の歴史を取材し、実際に揚げている所を撮影した。(4月30日放映)

凧の会は、現在20数名会員がいる。凧に興味があり、集合した時は大いに盛り上がる。多くの子供達が元気に凧を揚げている姿を皆望んでいる。凧に関心のある方は御一報下されば幸甚に存じます。

(会員 山口晴美 記)

私が子供の頃、正月は凧揚げと独楽(こま)まわしが遊びの中心だった。しかし現在はゲームで遊ぶ子が多く、外で子供の姿を見かける事が少なくなりました。私は、空高く揚がる凧にあこがれ、この会に参加した。



## 機織りの会 糸紡ぎに取り組む

糸紡ぎに取り組んでいます。紡ぎは綿が布になるまでの綿繰り、綿打ち、紡ぎ、織りの中で布の特徴を決める大切な作業です。道具として紡ぎゴマ、紡ぎ車を使用しています。

紡ぎゴマは、洋の東西を問わず古い遺跡から出てくるように昔から使われてきた道具です。時代を経て(13世紀頃)紡ぎ車が現れ、作業が早くなります。自作の材料で織るための作業が続きます。

(代表 今井恵子 記)

### R4年度 各グループ会員数と今年度活動計画 (純会員数 59名)

グループ名	代表者	会員数	今年度活動計画
1 土器作りの会	甲斐恵美子	7	粉碎と練り(10月)、土器作成(11月) 土器焼き(1月)
2 凧の会	小野寺研一	16	コロナ影響考慮して活動計画中
3 何でも有り会	安孫子素子	9	市内木々の散策、松戸市史跡見学
4 仏像を学ぶ会	吉田 保雄	5	定例学習会(4~5月、7月、9月、11月)。仏像鑑賞会(8月、11月)
5 古文書いろはの会	今井 久明	12	定例会(月2回、第2,4金曜日)前半 寺・神社略傳縁起、後半(地元資料)
6 機織りの会	今井 恵子	4	通年活動(毎週水曜日)。綿と藍の種まき、藍葉収穫、染色、綿収穫
7 盆栽愛好会	中村 康司	4	4月早春花展、11月秋季盆栽展
合計		57	

各グループ参加者 57名 + 無所属 9名 - 重複所属 7名 = 59名 (純会員)

# 古文書いろはの会 「各地名所百景も 楽しみひびく」

いろはの会、今年度前半は、房総の主要な神社・寺院の略傳や縁起を読む計画です。

成田山新勝寺、鹿野山神野寺、地元の三作神社、笠上観音を讀み、神社寺院の理解を深めたいと考えております。

(P3)より

ところで、古文書の楽しみの一つに、各地の地名説話や伝説・伝承等に触れ、その地域の歴史等を改めて知ることにも楽しみみの一つです。

又、江戸を始め日本全国の名所百景を文書に登場する地名と併せて図絵で見るとも興味が増致します。

昨年度、『皇女和宮』の牛車による嫁入に関する文書を読みました。その中で「牛町」という地名を知り、又名所百景に



出典：国立国会図書館デジタルコレクション

画かれている2つの図会に目にかかりその来歴を知ることが出来ました。

左の絵は名所江戸百景、右は東都三十六景です。右の絵は今にも牛が飛び出してきそうですが、一方左の絵は、牛車の車輪だけが大きく描かれています。高輪に牛町があったようですが、図会を見ることにより一層興味が深まります。

『皇女和宮』は、京都を出発するときと江戸城へお入りになるとき牛車を使われ、京都から江戸の間は、牛車は分解されて別途運ばれたようです。そのため、京都から牛車組立の専門家、牛車添え人が江戸へ召し出されその折の、江戸の受入れ文書の一部がこれです。

『和宮様御下向之節、御車に差添罷下り候、頭・棟梁其外職々之内、今村喜造並小者式人一昨二日夜本石町四丁目、旅宿へ到着仕候二付、其段御届申上置候處云々』

このように、京都から牛車職人の受入れ宿を用意する文書



出典：国立国会図書館デジタルコレクション

を読みました。

名所江戸百景では「高輪うしまち」と書かれておりますが、牛町は、東海道江戸の玄関口、であった高輪大木戸の外側にあった車町のこと、牛車を引かせる為の牛を飼っている家が多かったため「牛町」とも呼ばれたようです。

まさか江戸の町に牛が飼われていたとは思いませんでした。古文書って面白いですね。

(代表 今井久明 記)

**盆栽愛好会  
「早春花展」開催**  
4月22日(金)〜  
24日(日)

まだまだコロナ禍で動きづらい中ですが、昨年の秋に続いて今年も4月22日(金)〜24日(日)まで旧進藤家にて「早春花展」を開催しました。天候にもまずまず恵まれて見学者も3日間通して332名の方のご来場で賑やかに終えることができました。

今回は藤の開花の時期に合わせる事が出来て一つの見所になりました。「古民家には盆栽が良く似合い、一層盆栽が引き立って風情が増します」との声もかなり頂きました。

これからも皆様に喜んで頂けるように我々盆栽の会も頑張っていきたいと思っております。次回は秋を予定しています。楽しみにして下さい。

(代表 中村康司 記)



旧進藤家住宅での展示会

## 土器作りの会 文協遺跡の思い出

総会後の記念講演会の弥生時代の稲作文化につき、とても分かり易い説明で理解が出来ました。

講師の話に、文協遺跡(現平岡公民館周辺)が出てきて、懐かしさがいっぱい、当時私はその遺跡発掘に参加していました。

「文協遺跡は、すごかったんだ」と、大谷講師の話で同遺跡を改めて知り感動しました。

大谷さんが出向で当時の君津郡市文化財センターに赴任

されたあの頃インディアカというスポーツが盛んで昼休み皆と勿論、大谷さんも一緒になつて、運動していました。そんな思い出もよみがえってきた講演で大変懐かしかったです。

ありがとうございました。

(代表 甲斐恵美子 記)

## 何でも有り会 今年度 植物系の勉強も

「何でも有り会」って何? 変な会の名だと言う方もいらっしゃると思いますが、何かに拘るだけでなく、地元の地理、歴史、民俗、料理等それは興味あること何でも対象にする自由発想の会です。なお且、全員が楽しめる事を主に活動しています。たまには、グラウンドゴルフなど楽しく競技し懇親を深めております。

今年度は、植物に詳しい会員の入会があり、その方を中心に植物自然系の勉強会も予定しております。早くコロナが終息して、博物館の「自然と歴史の散策会」の再開を願うばかりです。

又今年こそ、ミュージアム・フェスティバルが開催されま

すように。

(代表 安孫子素子 記)

総会記念講演会(兼袖ヶ浦学第162回) 『弥生農耕の実像を探る』講演内容と感想

講演内容と感想は次の通り。 1、弥生時代の農耕の実情を探る場合、生産の場としての「水田」、道具としての「農具」、生産品としての「植物」の3つの視点が重要で、君津地域は、この3点が密接しており、全国的にも稀なる資料の宝庫であるとの紹介があった。

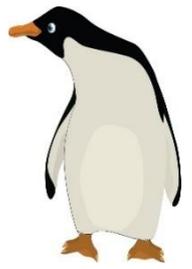
事実、近年君津地域から調査発見事例が増加。結果、千葉県内における水稲耕作技術は国家形成の原動力となる程整備された物であったとの事。 2、それ程高い生産力の君津地区のコメ作りで、「弥生人は、日常的にコメを食していたのだろうか」との問題提起があり、その謎の解明が進行した。

3、木更津市下望陀の芝野遺跡では、水田跡の畦道、水路等も作られ、壺や甕などが一定間隔で並べられた状態で出土。この土器の発見が、水田跡の年代を決定づけ(弥生後期)、且人々が水田に向かって豊作を祈る等の祭祀が行われていた。 4、君津市常代遺跡では小糸川下流の水田に水を供給する

ための堰が4カ所発見。弥生中期の段階で灌漑システムを確立していたことが立証され、更に農具に至っては、同遺跡から弥生中期の木製農具が使用時の状態のまま多数出土。現在使われている農具の原型が弥生の頃に既に現れており、又木の種類としてアカガシが使われ道具としての木の使用を前提に森の管理も行われていた。

5、生産物としての植物では、当市の文協遺跡(市内野里)での調査結果、土器の表面・断面にコメなどの種子の圧痕分析結果、イネの検出例が突出しており穀物生産の主力は、五穀の内イネであったと、一方ムギは検出事例がなく弥生時代にはなかったと推定。

6、以上の検討結果、当君津地方では、農耕技術が完備され高度であった事から、弥生人は日常的にコメを食していた可能性が高いと謎解きがありました。以上、現実の発掘事例をもとにしてSTORY性のある大変面白く、分かり易い講演でした。(受講 今井久明 記)



友の会入会者の声 古文書いろはの会 「展示品の手紙が読めたら楽しいだろう」と

昨年6月「いろはの会」に入会しました。数年前、高知に行った際、坂本竜馬記念館で竜馬が姉の乙女に当てた手紙が展示されていました。

「ああ、これを少しでも読む事が出来たら楽しいだろう」と感じ定年後、古文書を勉強したいと思う様になりました。いざ始めてみると「まるで分からない」とはこういうことなのかの連続です。けれども、看板などで昔の字体を見つけたら、会の活動で当時の人達の生活の一端を知ることができた時など楽しさが一杯あります。

この1年、声を出して読むだけで精一杯でした。解説メモと書き下し文がないとお手上げ状態がこれから先も続くと思えますが、気長に自分のペースで進めて行きたいと思えます (会員 御園玲子 記)

袖ヶ浦市郷土博物館 第25回ミュージアム・フェスティバル 11月26日(土) 27日(日) 両日開催予定で準備

R4年度第25回ミュージアム・フェスティバルは、11月26日、27日の両日に渡り開催予定で既に第1回実行委員会が開かれ、準備が進められています。又本年度は、袖博40周年の記念の年でもあり、博物館・市民学芸員・友の会知恵を絞っております。乞うご期待!

博物館人事異動 「そでほく、たいま」という気持ちです

4月の人事異動で博物館勤務となりました稲葉理恵です。生涯学習課で5年間、埋蔵文化財の取り扱いや指定文化財保存活用、山野貝塚に関連する仕事をして参りました。久しぶりに友の会、市民学芸員の皆様にお会いし以前と変わらぬ、元気ハツラツと活動させている様子を見ますと、「負けていられないなあ!」という



編集後記

本年度友の会59名で出発です。エネルギーと若い気持ちで活動したいものです。季節も緑一色になり、公園などのウォーキングも大変気持ちのよい時期です。友の会会長の挨拶にありますように「公園の木だけでも名札をつけたい」と、樹木や花に名札などがあれば、公園散歩も又楽しくかろうと更に花言葉などが添えられていれば、より花や木々に対する親しみが膨らみ楽しさも更に増すだろうと。これも既に友の会アンケートで提示しているが、なかなか実行への動きが表面化しない。

袖博40周年の記念事業の一つとすれば、喜ぶ市民の方も大勢おられるだろうと、公園散歩しながら思う今日この頃である。(編集担当 今井 記)